(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第4411671号
(P4411671)
(45)発行日　平成22年2月10日(2010.2.10)　(24)登録日　平成21年11月27日(2009.11.27)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 316A

請求項の数 6 (全 9 頁)

(21)出願番号　特願平10-257961
(22)出願日　平成10年9月11日(1998.9.11)
(65)公開番号　特開2000-84172(P2000-84172A)
(43)公開日　平成12年3月28日(2000.3.28)
審査請求日　平成14年4月17日(2002.4.17)
審判番号　不服2006-2245(P2006-2245/J1)
審判請求日　平成18年2月9日(2006.2.9)

(73)特許権者　598098526
株式会社ユニバーサルエンターテインメント
東京都江東区有明３丁目７番２６号
(74)代理人　100116872
弁理士　藤田　和子
(72)発明者　角田　靖治
東京都江東区有明３丁目１番地２５　アルゼ株式会社内

合議体
審判長　伊藤　陽
審判官　深田　高義
審判官　森　雅之

(54)【発明の名称】入賞装置及び遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
左右回動自在に取り付けられた一対の可動翼片と、遊技盤の表裏に連通する入賞口及び前記一対の可動翼片に対向しかつ前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を前記入賞口に案内する入口部を有する球案内部材と、前記一対の可動翼片を開閉動させ、開くことによって複数の遊技球が同時入球可能な状態と閉じることによって遊技球が入球困難な状態とに設定する駆動機構とを備えた入賞装置であって、
前記入口部は、前記入賞口の上部を略半球状に包囲するように形成するとともに、前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球の左右の移動を規制しながら前記入賞口に遊技球を案内する左右の内壁面を有し、前記左右の内壁面のうち左側の内壁面の前記一対の可動翼片側の端部に、前記一対の可動翼片側から前記入賞口の奥壁に向かって前記左右の内壁面の間隔が狭くなる切り欠き部を形成し、右側の内壁面を前記奥壁に向かって直線状に形成することにより、前記左右の内壁面を左右非対称な形状に形成したことを特徴とする入賞装置。
【請求項２】
前記一対の可動翼片が開いた状態においては、前記球案内部材に対して左右方向から同時に遊技球が入り込むことが可能になり、
前記一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際には、前記切り欠き部を有する左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に前記入賞口に入り込むように前記左右の内壁面が形成されたことを特徴とする請求項１記載の入賞装置。

【請求項３】
前記一対の可動翼片が閉じた状態では、前記一対の可動翼片の間に１個の遊技球が上方から入り込むことが可能な間隙が形成されることを特徴とする請求項２記載の入賞装置。
【請求項４】
遊技盤と、左右回動自在に取り付けられた一対の可動翼片、遊技盤の表裏に連通する入賞口及び前記一対の可動翼片に対向しかつ前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を前記入賞口に案内する入口部を有する球案内部材、及び前記一対の可動翼片を開閉動させ、開くことによって複数の遊技球が同時入球可能な状態と閉じることによって遊技球が入球困難な状態とに設定する駆動機構を備え、前記遊技盤に設置される入賞装置と、を備えた遊技機であって、
前記入口部は、前記入賞口の上部を略半球状に包囲するように形成するとともに、前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球の左右の移動を規制しながら前記入賞口に遊技球を案内する左右の内壁面を有し、前記左右の内壁面のうち左側の内壁面の前記一対の可動翼片側の端部に、前記一対の可動翼片側から前記入賞口の奥壁に向かって前記左右の内壁面の間隔が狭くなる切り欠き部を形成し、右側の内壁面を前記奥壁に向かって直線状に形成することにより、前記左右の内壁面を左右非対称な形状に形成したこと特徴とする遊技機。
【請求項５】
前記一対の可動翼片が開いた状態においては、前記球案内部材に対して左右方向から同時に遊技球が入り込むことが可能になり、前記一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際には、前記切り欠き部を有する左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に前記入賞口に入り込むように前記左右の内壁面が形成されたことを特徴とする請求項４記載の遊技機。
【請求項６】
前記一対の可動翼片が閉じた状態では、前記一対の可動翼片の間に１個の遊技球が上方から入り込むことが可能な間隙が形成されることを特徴とする請求項５記載の遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、パチンコ遊技機等の遊技盤に設けられる入賞口及び入賞装置に関し、特に遊技球が入ることができる球入口の形状を改良し、球詰まりを防止した入賞装置及び遊技機に関する。
【０００２】
【従来の技術】
パチンコ機等の遊技盤正面には、入賞領域を形成する各種入賞口或いは入賞口に付属部材を加えて形成した入賞装置が配置されている。そして、これら入賞領域に遊技球が入賞すれば賞球の払い出し等の利益が付与されるため、遊技者はこれらへの入賞を狙うこととなる。
【０００３】
しかし、あまりにも容易に入賞できるとなると、遊技性が損なわれ、また遊技店にとっては不利益が大きくなるため、入賞領域に一度に入賞できる遊技球数をある程度制限する必要がある。
【０００４】
従って、入賞口や入賞装置に一度に多くの遊技球が入賞できないように、一度に入賞できる遊技球数が１個乃至２個となるような狭い間口で形成している。
【０００５】
また、入賞装置には、入賞口の前に左右に開閉する一対の可動翼片を備えた可変入賞装置がある。この可変入賞装置は、一対の可動翼片が開かれれば、遊技球が入賞し易い状態となり、可動翼片が閉じられれば、遊技球が入賞し難い状態となる。
【０００６】
より具体的には、この種の可変入賞装置は、両翼片の間に遊技球１個分の間隙を残して両

翼片が閉じられているときは、遊技球は上方からのみ入賞が可能であるので、相対的に入賞が困難な状態となっているが、遊技球が１個入賞すると、可動翼片が左右に開き、上方からの遊技球の入賞に加えて左右方向からも遊技球の入賞が可能となるので、相対的に入賞が容易になる。

【０００７】

このような入賞装置において、遊技球が連続して落下すれば、複数の遊技球が入賞口に同時に入ろうとすることがある。

【０００８】

【発明が解決しようとする課題】

従来の入賞口においては、複数の遊技球が同時に入ろうとすると、遊技球同士の接触あるいは入賞口の外縁に引っ掛かることにより、入賞口の手前で遊技球が詰まってしまうことがある。

【０００９】

また、従来の可変入賞装置においては、複数の遊技球が左右及び上方向の三方向から同時に入り込んだ瞬間に一対の可動翼片が閉まろうとして、積み重なった複数の遊技球が左右方向から可動翼片で挟まれたりして、移動不能となる場合がある。

【００１０】

このような可変入賞装置における球詰まりを防止する手段としては、実開平７－７６８６公報に示すように、一対の可動翼片の内面をそれぞれ円弧状に窪ませると共に、窪みを左右非対称形に形成することにより、両可動翼片の間に２個の遊技球が同時に入っても、左右非対称形に形成した可動翼片の内面によって互いの遊技球が上下にずれ、下方に位置する球を優先的に落下させる構造が提案されている。

【００１１】

しかし、この構造において、両可動翼片の間から遊技球が球詰まりを起こすことなく落下したとしても、その先の入賞口に流入する遊技球同士の接触あるいは入賞口の外縁に引っ掛かることにより、入賞口の手前で遊技球が詰まってしまうことがある。

【００１２】

本発明の目的は、連続して遊技球が入り込んだ場合でも球詰まりを引起こすことのない入賞装置及びこれを利用した遊技機を提供することである。

【００１３】

【課題を解決するための手段】

本発明の第１の態様では、左右回動自在に取り付けられた一対の可動翼片と、遊技盤の表裏に連通する入賞口及び前記一対の可動翼片に対向しかつ前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を前記入賞口に案内する入口部を有する球案内部材と、前記一対の可動翼片を開閉動させ、開くことによって複数の遊技球が同時入球可能な状態と閉じることによって遊技球が入球困難な状態とに設定する駆動機構とを備えた入賞装置であって、前記入口部は、前記入賞口の上部を略半球状に包囲するように形成するとともに、前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球の左右の移動を規制しながら前記入賞口に遊技球を案内する左右の内壁面を有し、前記左右の内壁面のうち左側の内壁面の前記一対の可動翼片側の端部に、前記一対の可動翼片側から前記入賞口の奥壁に向かって前記左右の内壁面の間隔が狭くなる切り欠き部を形成し、右側の内壁面を前記奥壁に向かって直線状に形成することにより、前記左右の内壁面を左右非対称な形状に形成したことを特徴とする。

【００１４】

本発明の第２の態様では、前記一対の可動翼片が開いた状態においては、前記球案内部材に対して左右方向から同時に遊技球が入り込むことが可能になり、前記一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際には、前記切り欠き部を有する左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に前記入賞口に入り込むように前記左右の内壁面が形成されたことを特徴とする。

【００１５】

本発明の第３の態様では、前記一対の可動翼片が閉じた状態では、前記一対の可動翼片

の間に１個の遊技球が上方から入り込むことが可能な間隙が形成されることを特徴とする特徴とする。

【００１６】

本発明の第４の態様では、遊技盤と、左右回動自在に取り付けられた一対の可動翼片、遊技盤の表裏に連通する入賞口及び前記一対の可動翼片に対向しかつ前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を前記入賞口に案内する入口部を有する球案内部材、及び前記一対の可動翼片を開閉動させ、開くことによって複数の遊技球が同時入球可能な状態と閉じることによって遊技球が入球困難な状態とに設定する駆動機構を備え、前記遊技盤に設置される入賞装置と、を備えた遊技機であって、前記入口部は、前記入賞口の上部を略半球状に包囲するように形成するとともに、前記一対の可動翼片に入り込んだ遊技球の左右の移動を規制しながら前記入賞口に遊技球を案内する左右の内壁面を有し、前記左右の内壁面のうち左側の内壁面の前記一対の可動翼片側の端部に、前記一対の可動翼片側から前記入賞口の奥壁に向かって前記左右の内壁面の間隔が狭くなる切り欠き部を形成し、右側の内壁面を前記奥壁に向かって直線状に形成することにより、前記左右の内壁面を左右非対称な形状に形成したこと特徴とする。

【００１７】

本発明の第５の態様では、前記一対の可動翼片が開いた状態においては、前記球案内部材に対して左右方向から同時に遊技球が入り込むことが可能になり、前記一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際には、前記切り欠き部を有する左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に前記入賞口に入り込むように前記左右の内壁面が形成されたことを特徴とする。

【００１８】

本発明の第６の態様では、前記一対の可動翼片が閉じた状態では、前記一対の可動翼片の間に１個の遊技球が上方から入り込むことが可能な間隙が形成されることを特徴とする。

【００１９】

【作用及び効果】

本発明の入賞装置によれば、一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を入賞口に案内する入口部の左右の内壁面における左側の内壁面に切り欠き部を形成し、右側の内壁面を前記奥壁に向かって直線状に形成している。このため、一対の可動翼片が開いた状態において、左右方向から同時に遊技球が一対の可動翼片に入り込んだ場合、左右の遊技球が入口部の手前まで至っても、左側の内壁面に位置する遊技球が右側の内壁面に位置する遊技球よりも先に入賞口に入り込み、入賞口に２個以上の遊技球が左右から同時に入り込むことはない。このため、入口部の手前で球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。

【００２０】

本発明の入賞装置において、一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際に複数の遊技球が役物に入り込んだ場合に、左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に入口部に入り込むようになる。このため、入口部の手前で球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。

【００２１】

本発明の入賞装置によれば、例えば、一対の可動翼片が閉じようとする瞬間に、上方からの遊技球と開いた左右の可動翼片からの遊技球との３個の遊技球、すなわち三方からの遊技球がほぼ同時に入球し、閉じようとする可動翼片により、これら３個の遊技球が積み重なって上に乗った遊技球が入口部の上縁に接触し、さらに、下側の遊技球は上に乗った遊技球の重さで押し付けられ、かつ左右方向から可動翼片で挟まれた状態となって、３個の遊技球が三角形状に位置したものとする。この場合でも、左右の可動翼片が閉じて下方の２つの遊技球が押圧された際に、３個の遊技球の中で左側の内壁面側の遊技球が入口部側に移動しようする力が作用するため、左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に案内路に入り込むようになる。その結果、球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。

【００２２】
本発明の遊技機によれば、一対の可動翼片に入り込んだ遊技球を入賞口に案内する入口部の左右の内壁面における一方の壁面に切り欠き部を形成して、左右の内壁面を左右非対称な形状に形成している。このため、一対の可動翼片が開いた状態において、左右方向から同時に遊技球が一対の可動翼片に入り込んだ場合、左右の遊技球が入口部の手前まで至っても、左側の内壁面に位置する遊技球が右側の内壁面に位置する遊技球よりも先に入賞口に入り込み、入賞口に２個以上の遊技球が左右から同時に入り込むことはない。このため、入口部の手前で球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。
【００２３】
本発明の遊技機によれば、一対の可動翼片が開いた状態から閉じる際に複数の遊技球が役物に入り込んだ場合に、左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に入口部に入り込むようになる。このため、入口部の手前で球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。
【００２４】
本発明の遊技機によれば、例えば、一対の可動翼片が閉じようとする瞬間に、上方からの遊技球と開いた左右の可動翼片からの遊技球との３個の遊技球、すなわち三方からの遊技球がほぼ同時に入球し、閉じようとする可動翼片により、これら３個の遊技球が積み重なって上に乗った遊技球が入口部の上縁に接触し、さらに、下側の遊技球は上に乗った遊技球の重さで押し付けられ、かつ左右方向から可動翼片で挟まれた状態となって、３個の遊技球が三角形状に位置したものとする。この場合でも、左右の可動翼片が閉じて下方の２つの遊技球が押圧された際に、３個の遊技球の中で左側の内壁面側の遊技球に入口部側に移動しようする力が作用するため、左側の内壁面側の遊技球が右側の内壁面側の遊技球よりも先に案内路に入り込むようになる。その結果、球詰まりは発生せず、円滑な遊技球の入賞が可能となる。
【００２５】
【発明の実施の形態】
以下、本発明にかかる入賞口を可変入賞装置に適用した場合を例として説明する。
【００２６】
図１は、一実施例である可変入賞装置１０を示す斜視図で、一部を切り欠いて示している。
【００２７】
可変入賞装置１０は、本体部１１と、これに左右回動自在に取り付けられた一対の可動翼片１２ａ，１２ｂと、遊技盤の表裏に連通する入賞口１３及び第２入賞口１８（図２及び図３）を形成した球案内部材１４と、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂを開閉動させる駆動機構とで構成されている。駆動機構は、ソレノイド１５を駆動源とし、これが励磁されたとき引きつけられる磁性体の揺動板１６、及びこれと一体でその前方に延びた左右一対の作動腕１７を含む。各作動腕１７は、各々の先端部が各可動翼片１２ａ，１２ｂの背面に設けた穴に緩く嵌合し、揺動板１６がソレノイド１５に引きつけられると、各作動腕１７の先端部が上昇して各可動翼片１２ａ，１２ｂを左右に開くように構成されている。
【００２８】
本体部１１は、合成樹脂からなる基台であり、球案内部材１４や一対の可動翼片１２ａ，１２ｂを支持する支持部（図示省略）、遊技機の遊技盤に固定するための爪１９等が予め一体に成形されている。
【００２９】
図１及び図２では、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂは開いた状態にある。この状態では、遊技球が左右から入賞口１３に入賞することができる。一方、図３に示すように、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが閉じられた状態では、従来と同様、両翼片の間に遊技球が入賞可能な１個分の間隙を残しているが、その間隙の上に第２入賞口１８を形成した球案内部材１４の張出し部が位置して、上記間隙を塞いでいるので、遊技球は両翼片の間に入ることができない。

【００３０】
一対の可動翼片１２ａ，１２ｂは通常、上記のように閉じられた状態にあり、遊技球は入賞口１３へは入賞できないが、第２入賞口１８からの入賞は可能である。この第２入賞口１８に落下した遊技球は、案内路１１ａを通って遊技盤の裏面へと導かれる。その時、図示しないセンサで遊技球を検出した信号が遊技機の制御部に送られると、制御部から駆動機構に駆動信号が送られ、ソレノイド１５を作動させ、作動腕１７を介して一対の可動翼片１２ａ，１２ｂを左右に開く。
【００３１】
こうして、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが開放されたとき、可変入賞装置１０の左右方向から遊技球が入り込んで入賞口１３に入賞すれば、その遊技球は、遊技球検出器（図示省略）を通って、球回収通路（図示省略）に回収される。遊技球検出器として、例えば、遊技球の通過による磁界の変化で遊技球の通過を検出する磁気センサが用いられる。
【００３２】
図２及び図３は、可変入賞装置１０の正面外観図である。
【００３３】
入賞口１３の真上に位置する第２入賞口１８は、可変入賞装置１０の開閉状態に関係なく入賞可能で、この第２入賞口１８に遊技球が入賞すれば、所定数の遊技球が払い出されるとともに、上記のように可動翼片１２が開かれる。一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが開いているときに遊技球が第２入賞口１８に入賞すれば、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂは閉じられる。
【００３４】
球案内部材１４の正面の入口部１４ｃは、中央下部に形成される入賞口１３まで遊技球を案内するように形成されている。球案内部材１４の上部には略半球状の屋根が形成され、その内部は、右案内部１４ａ及び左案内部１４ｂによって略半球状の屋根の内周壁W1及びW2を形成している。この内周壁W1及びW2は、左右非対称の形状を形成している。
【００３５】
図４は、図１及び図２のIII－III線に沿って上方より見た場合を示す。一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが開かれているときに左右方向から入り込んできた遊技球は、入口部１４ｃより上記内周壁W1及びW2によって案内され、行止壁部１４ｄに突き当たって、入賞口１３に入るようになっている。
【００３６】
そして、右案内部１４ａは、入口部１４ｃから行止壁部１４ｄまで前後に延びた内周壁W1を形成しているが、左案内部１４ｂにおいては、内周壁の径が入口部１４ｃで大きく、行止壁部１４ｄに向かって奥になるに従い徐々に小さくなるような内周壁W2を形成している。すなわち、左案内部１４ｂは、入口部１４ｃから行止壁部１４ｄまで斜めに切り欠いた形状の内周壁W2を有する。
【００３７】
尚、右案内部１４ａと左案内部１４ｂの形状を図示のものと逆にしてもよい。すなわち、右案内部１４ａは内周壁の径が入口部１４ｃで大きく、行止壁部１４ｄに向かって奥になるに従い徐々に小さくなるような内周壁W2となるように斜めに切り欠き形成し、左案内部１４ｂは奥まで延びた内周壁W1となるように形成してもよい。また、切り欠きは、必ずしも斜めにする必要はない。
【００３８】
図示の構成によれば、左右方向より遊技球が可変入賞装置１０に入り込んだとき、前述のように、内周壁W2を有する左案内部１４ｂにおいて入口部１４ｃの径が大きく形成されているので、左側から入ってきた遊技球の方が、右側から入ってきた遊技球よりも入り易い。従って、遊技球が左右同時に入賞口１３に向かって入口部１４ｃから入り込もうとしたときでも、左案内部１４ｂが上記のように入口部１４ｃから行止壁部１４ｄまで内周壁を斜めに切り欠いたような形状となっているので、右側の遊技球より先に左側の遊技球が入賞口１３に入り込む。このため、球詰まりが生じることなく遊技球のスムーズな入賞を

可能とする。

【００３９】

例えば、図４のように遊技球Ａ及びＢが左右方向より同時に流入したとき、右方向から入り込んできた遊技球Ｂは、遊技球Ａと接触すると共に右案内部１４ａの入口部１４ｃに接触して止められるが、左方向から入り込んできた遊技球Ａは、斜めに面取り形成された左案内部１４ｂにより入口部１４ｃの内周壁W2の径が大きく形成しているので、左案内部１４ｂに接触して止められるという状態は起こらず、遊技球Ｂより先に入賞口１３内に入り込む。

【００４０】

即ち、左右方向より同時に流入した遊技球ＡとＢとの間において、入賞口１３に入賞するまでの行程が左側のほうが少ない（右側は右案内部１４ａに接触して止められるという余分な行程が生じる）ため、遊技球が入り込むタイミングに微妙なズレが生じ、球詰まりが起こることはない。

【００４１】

図５は、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが開放されたときに、連続して可変入賞装置１０に左右方向から入り込んだときの状態を示している。正面から見て左側からの遊技球Ｃは、斜めに面取りした左案内部１４ｂに沿って入り込む。これに続いて左側から入ろうとする遊技球Ｄも同様である。ここで、左側からの遊技球Ｄと右側の遊技球Ｅが同時に流入しようとしたとき、遊技球Ｄは、前述の通り、斜めに面取りした左案内部１４ｂに沿って入り込むので、それだけ早く入賞口１３に流入できるが、右側の遊技球Ｅは案内部１４ａに接触するので、その分遅延して入賞口１３へ入るようになる。こうして、左右方向より２個の遊技球が同時に入賞した場合は、入賞口１３の左案内部１４ｂが斜めに面取り形成されているため、左側からの遊技球が先に奥方向に導かれる。従って、前述の通り、球詰まりが発生することはない。

【００４２】

また、上記の例と同様に、遊技球が連続して可変入賞装置１０に入賞したとして、先に第２入賞口１８からも遊技球の流入があって、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが閉じられたとする。すなわち、その一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが閉じようとする瞬間に左右方向から２個の遊技球がほぼ同時に入り込み、閉じようとする一対の可動翼片１２ａ，１２ｂにより、入口部１４ｃの手前に左右に２個の遊技球が位置したものとする。

【００４３】

しかし、この場合でも、左案内部１４ｂが切り欠き形成していることにより、球詰まりが生ずることなく、左側の遊技球が先に入賞口１３内に入り込み、続いて右側の遊技球が入賞口１３内に入り込む。

【００４４】

また、上記第２入賞口１８を入賞口１３に直接連通する門形の保護部材に形成し、可動翼片１２ａ，１２ｂが閉じられた状態でも上方から入賞口１３への入賞を可能とした可変入賞装置においても、入賞口１３の左案内部１４ｂを切り欠き形成することにより、球詰まりを生じさせないものとすることができる。

【００４５】

例えば、一対の可動翼片１２ａ，１２ｂが閉じようとする瞬間に保護部材を通った上方からの遊技球と、開いた左右の可動翼片１２からの遊技球との3個の遊技球、すなわち三方からの遊技球がほぼ同時に可変入賞装置１０に入賞したとする。そして、閉じようとする可動翼片１２ａ，１２ｂにより、これら３個の遊技球が積み重なって上に乗った遊技球が入口部１４ｃの上縁に接触し、さらに、下側の遊技球は上に乗った遊技球の重さで押し付けられ、かつ左右方向から可動翼片で挟まれた状態となって、３個の遊技球が三角形状に位置したものとする。この場合でも、左案内部１４ｂを切り欠き形成していることにより、左下の遊技球は、先に入賞口１３に入り込むため、球詰まりは生じることなく、入賞口１３へのスムーズな入賞が可能になる。

【００４６】

図６は、パチンコ遊技機に上記可変入賞装置１０を用いた場合の遊技盤を示す。

【００４７】

遊技盤１の遊技領域２内には、多数の釘３、風車４、液晶表示装置５等が設けられ、本発明にかかる可変入賞装置１０は、例えば中央下部（液晶表示装置５の下）に設けられる。遊技盤１の右下部には、遊技球発射用ハンドル（図示省略）が設けられ、このハンドルの操作により遊技領域２内に打ち出された遊技球Ｐは、釘３、風車４等に当たりながら落下する。そして、可変入賞装置１０に入賞すれば、所定数の遊技球が払い出されると共に、液晶表示装置５等による別遊技が開始され、より多くの利益獲得の機会が付与される。従って、遊技者は、この可変入賞装置１０への多くの入賞を狙うこととなる。

【００４８】

本発明は、上記のような可変入賞装置に限らず、遊技球が同時に入り込もうとして、互いに接触して球詰まりを発生するような入賞口は勿論、このような入賞口を有する入賞装置に適用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明にかかる可変入賞装置の一実施例を一部切り欠いて示す正面斜視図。

【図２】図１の可変入賞装置の正面外観図。

【図３】図１の可変入賞装置の一対の可動翼片が閉じられた状態を示す正面外観図。

【図４】図１の可変入賞装置を上方より見た断面図。

【図５】可変入賞装置への遊技球の流入状態を示す正面斜視図。

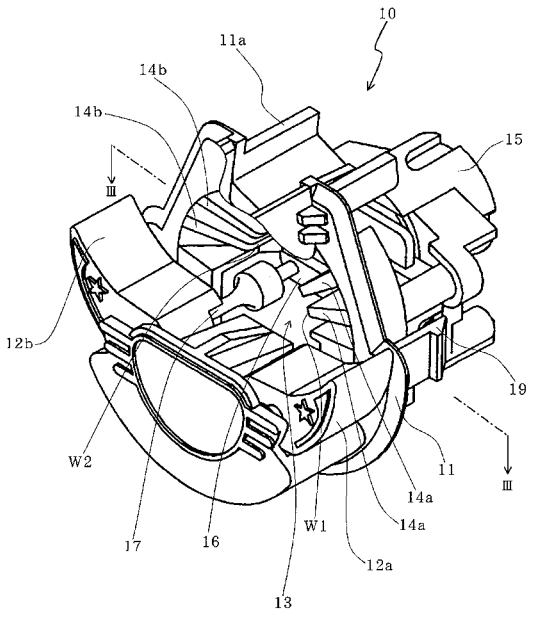
【図６】実施例の可変入賞装置を備えた遊技機の遊技盤を示す正面外観図。

【符号の説明】

１…遊技盤、２…遊技領域、３…釘、４…風車、５…液晶表示装置、１０…可変入賞装置、１１…本体部、１２…可動翼片、１３…入賞口、１４…球案内部材、１５…ソレノイド、１６…揺動板、１７…作動腕、１８…第2入賞口。

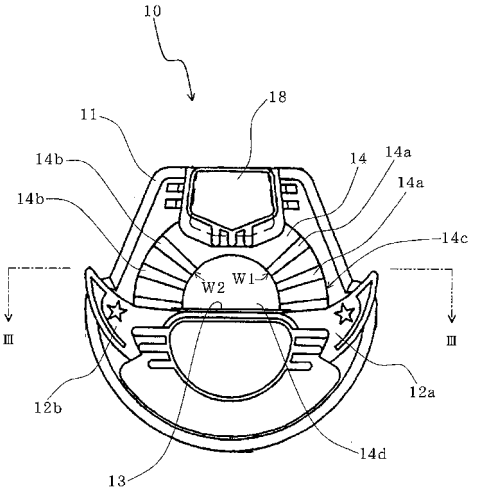
【図１】

FIG.1



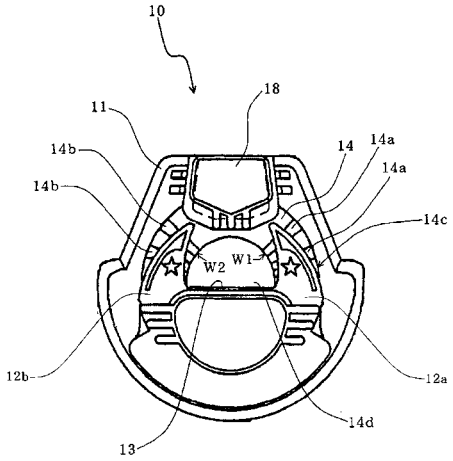
【図２】

FIG.2



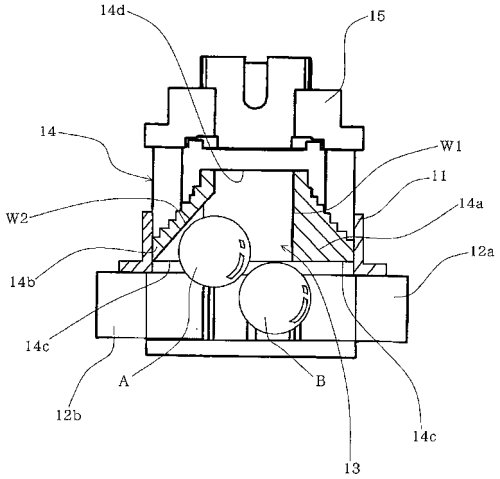
【図３】

FIG.3



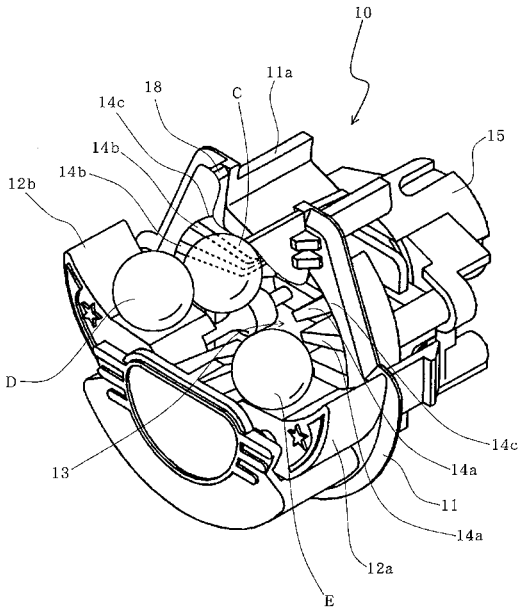
【図４】

FIG.4



【図５】

FIG.5



【図６】

FIG.6

